国際交流レポート

福岡歯科大学では、アジアやカナダの提携大学と交流を行っています。今年も4組の学生訪問団が各国の文化や歯科医療の教育現場、臨床現場を学んできました。

韓国 慶熙（キョンヒ）大學校歯科大学（3月13日～19日）

歯科を通じて生まれた交流

田中 亜弥（第6学年）

私達、大坪博貴・江口奈海・田中亜弥の3名は、梶井准教授引率の下、韓国の慶熙（キョンヒ）大學校歯科大学への海外研修に参加させて頂きました。慶熙大學校歯科大学は約50万㎡もの広大な敷地に24の学部を持つ私立大学です。博物館や、まるでノートルダム大聖堂を連想させる講堂は圧巻でした。私達は慶熙大學校の学生さんと一緒にキャンパス及び病院見学、教授の特別講義を受けました。学生さんは私的な時間を割いてまで積極的かつ前向きな姿勢で私達と向き合って下さり、感謝の念に堪えません。附属病院は800床を有しており、最上階には韓国で唯一漢方を調合する専用フロアがあり、西洋医学と並行して東洋医学も積極的に取り入れる治療はとても新鮮でした。この様な素晴らしい機会を与えて頂いたことに感謝し、この経験を活かして精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。

中国 上海交通大学口腔医学院（3月13日～19日）

中国の歯科事情

池田 礼子（第6学年）

3月中旬の1週間、佐藤教授と都築准教授引率のもと、河村修平・高地昇大・栗尾宜徳・池田礼子は上海交通大学口腔医学院を訪れました。

附属の病院は年間100万人来院する大病院で、各科細かく区分されています。先生は大部分の治療を1人30分で済ませるにも関わらず全く煩雑さがなく高い技術を持ち、学生も自主性と誇りを持っています。治療費の高い特別室の待合室まで人が溢れ、学部棟に博物館が併設される程の長い歴史もあります。

見学の後には中国の名所を案内してもらい、中華料理をご馳走になり、最初から最後まで上海交通大学の先生や学生には大変厚いおもてなしに預かり有意義な研修となりました。

今回の研修を終えて苦手なことや面倒そうなことこそ、のちに糧となると感じました。皆さんには何事も弊害やデメリットを感じて尻込みするより、まず飛び込んで挑戦してみて欲しいです。

中国 中国医科大学口腔医学院（3月20日～26日）

中国医科大学への訪問

大西 俊介（第6学年）

私達、重城伸昭・幡地秀栄・森志穂美・大西俊介の4名は、橋本教授、松﨑講師引率の下、中国医科大学口腔医学院への海外研修に参加させていただきました。

口腔病院の研修で印象的だったのは、中国東北部からの多数の患者で病院内は溢れかえり、自己主張の強い患者達に対しての先生方の丁寧な説明と、圧倒的な数の症例に対して迅速かつ適切な処置が行われていたことです。

今回の研修中、中国医科大学の学生6名と交流することができ、彼らの歯科医学に対する情熱的な姿勢と圧倒的な英語力には多くの刺激を受け、今後の自己研鑽の励みとなりました。

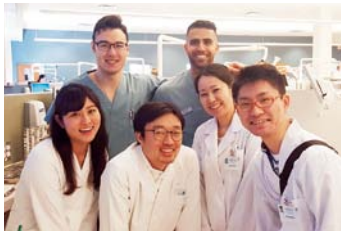
この1週間の素晴らしい経験によって、自分が置かれている世界を俯瞰的、客観的に見直す視点を得ることができたと思います。今回このような研修の機会を与えてくださり、心から感謝いたします。

カナダ ブリティッシュコロンビア大学（4月17日～5月1日）

UBCでの研修

石川 翔子（第6学年）

悪天候で飛行機の出発が遅れるというハプニングがあり、予定より1日遅れの4月18日から、南舘崇夫・三原朋之・秋山史織と私の4名は、カナダのブリティッシュコロンビア大学への海外研修に参加させて頂きました。

UCBでは、マネキン実習でも患者さんの治療でも学生が一人で行っており大変驚きました。理由を尋ねると、講義で説明しているので現場では学生が自分自身でよく考えて決める、と言われ、学生の時から「自分で考え行動する」力を身に着けることの重要性を感じました。他国の文化や歯科医療の教育・臨床現場を見学させていただいた今回の経験は、私のこれからの歯科医師人生で大きく影響することは間違いないと思います。

最後になりましたが、カナダでお世話になった方々、また、このような機会を与えてくださった学園の関係者の方々に心より感謝申し上げます。